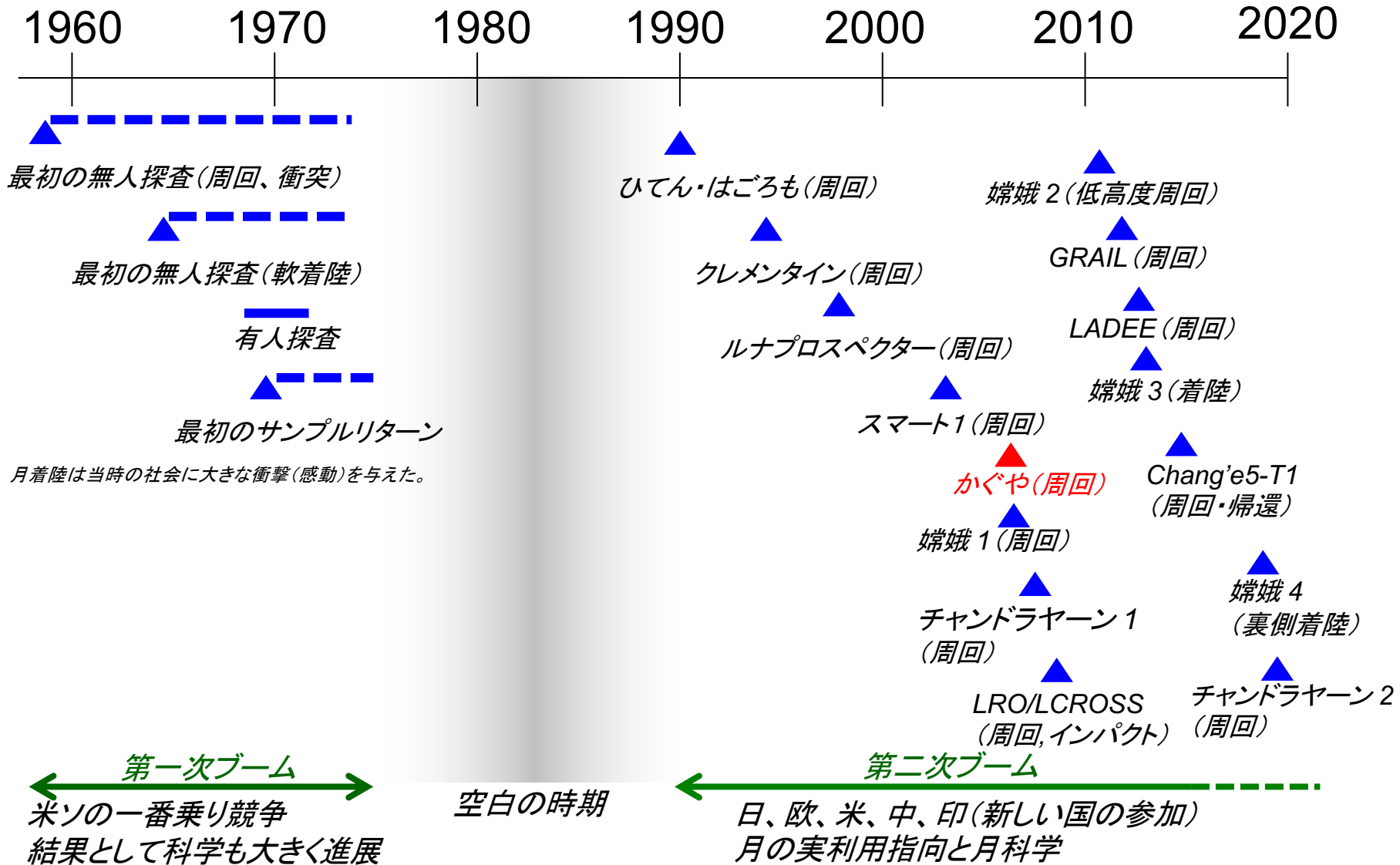


「月の科学探査と利用の可能性調査」の時代(～2020年頃まで)



「月の実利用のための準備」の時代(2020年頃から～)

2020

2030

2040



2020.12 嫦娥5 (中国)
(サンプルリターン)



2023.8 チャンドラヤーン3 (インド)
(南極着陸)



2024.1 SLIM (日本)
(着陸探査)



2024.2 IM-1 (米国)
(民間初の着陸成功)



2024.5 嫦娥6 (中国)
(月裏側からのサンプルリターン)



2025.3 Blue Ghost Mission 1 (米国)
(民間2番目の着陸)



2025.3 IM-2 (米国)
(民間、着陸)



2026年頃 LUPEX
(日本・インド共同) (南極着陸探査)



2027年頃 ispace HAKUTO-R M3
(日本、民間) (着陸探査)



2027年頃 ルナ26号 (ロシア)
(周回探査)



国際宇宙ステーション
米国予算終了

アルテミス計画(米国主導、ヨーロッパ、日本、他)。当初の有人月周回基地(ゲートウェイ)はトランプ政権の方針により2025年に中止決定。無人月周回のアルテミス1は2022年に完了。有人月周回のアルテミス2は2026年頃に予定、有人月着陸のアルテミス3は2027年頃に予定。それ以降のミッションは流動的。

月面研究拠点計画(中国、ロシア、他)。2026年頃 嫦娥7号で南極探査、2028年頃 嫦娥8号で月面でのサンプル分析、資源利用実験。これらが研究拠点の前段階ミッション。2030年代初めに有人探査を予定。

無人

有人

